



国史跡本佐倉城跡案内所がオープンしました

悲願であった本佐倉城跡案内所が完成し、熊谷千葉市長（現知事）や西田佐倉市長他多数の御来賓を迎え、1月30日開所式を行いました。新型コロナウイルス感染症の蔓延が予測されたため、2、3月の間、一般公開を自粛し4月1日からオープンしました。男性、女性用トイレの他多目的トイレも完備した素晴らしい案内所です。

この案内所は、休日の翌日を除き9時から16時30分まで開所しています。また案内所には、受付を担当するNPO法人輝け酒々井まちづくり研究会の会員とガイドを担当する酒々井ふるさとガイドの会員2～3名が常駐し、皆様のお越しをお待ちしています。但し、ボランティアでの運営のため場合によっては、十分な対応ができない場合もありますので、団体の方や大勢のグループで見学に来られる場合は、事前に予約をお願いしています。

開所から今日まで、4月、5月合計2700人と大勢の来城者が訪問されています。また、この案内所には、本佐倉城に係る資料を多数取り揃えて来場された方々に無料で配布しています。中でも所内展示をしている築城から落城に至る経緯と発掘調査結果を小冊子に纏めた「本佐倉城跡」も無料配布しています。この小冊子には、1454年から始まった享徳の乱（関東戦国時代の始まり）から天正18年（1590年）豊臣秀吉によって小田原征伐が行われ後北条氏が滅び、これに加担した本佐倉城主千葉氏が如何にして滅びこの地が千葉氏の終焉の地になったのか等について記載されています。

本佐倉城跡は、歴史以外にも自然が豊かで四季折々の珍しい山野草が咲き自然を肌で感じる事が出来る素晴らしい城跡です。町内から2Km程度と散歩するには格好の場所です。是非お尋ね頂きこのことを実感してください。両会の会員一同お待ちしております。

参考：[<http://sites.google.com/view/suketane>]



2021年1月30日 開所式

酒々井町の誇り 「町民の安心施設“エコトピア”への期待」

◆エコトピア酒々井の誕生

特別養護老人ホーム“エコトピア”は、昨年、創立25周年を迎えました。1995年に「市民が高齢者福祉を創る会」を立ち上げて協力者を募るところから奔走された酒々井区在住の大野一二さんの話では、当時は高齢者を対象とする介護施設の必要性を認める人は少なく、資金集めは困難を極めたようです。国の補助が得られたとは言え、当時、佐倉市や成田市からも頼りにされる立派な介護施設を設立した町民有志の皆さんには改めて敬意を表したいと思います。



◆エコトピア酒々井の発展

1996年に社会福祉法人 鼎（かなえ）が設立され、1998年に特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイケア、ケアハウス、在宅介護支援センター等の事業を併設する総合介護サービスが開業しました。

その後、2000年から2007年にかけて、居宅介護支援センター、生きがいデイサービス、地域包括支援センター、配食サービスが事業化され、2009年には、障がい福祉サービス「ワーク・かなえ」が開設されて、就労継続支援B型、自立訓練（生活訓練）、日中一時支援等のサービスを開始しました。

更に2013年には特別養護老人ホームが増床され、ユニット型（定員40名）介護サービスを開始しました。2019年には国が注力する在宅介護の分野で他社の既存事業を引き継いでサービスを拡充しました。

◆エコトピア酒々井の現状と課題

現状で特別養護老人ホームの110名を始め、ショートステイ、デイケア、ケアハウス、在宅介護、障がい福祉サービス等と合わせ300人近い人たちにサービスが提供されており、この内の6割（デイサービス、ショートステイでは、9割）以上が酒々井町在住者で占められています。町からの受託事業である地域包括支援センターや生きがいデイサービス等も合わせるとエコトピアの存在は町民にとって、なくてはならない大事な施設となっています。

一方、約150人のケアワーカーやケアマネジャーと呼ばれる人たちや看護師や調理員、事務員等が協力しサービスの提供に当たっており、嘗ては酒々井町の住民の働き場所としても喜ばれていた施設でしたが、今では従業員不足が深刻になっています。特にコロナウイルスの感染対策で手間が増えている現状で、募集を繰り返し（裏面へ続く）



ても就労希望者は皆無の状態が続き、サービス従事者の負担が増すばかりです。

私たち町民も充実した総合福祉介護サービスを提供する施設が町民の力で早くに設立されて、今も身近に介護保険ベースで安価な費用で親身な福祉サービスが受けられることを“町の誇り”に出来るように、町民が出来る限りの支持、支援を提供できる親密な関係が構築できるように努めて行きたいと思いをします。



愛宕神社 (あたごじんじや)

愛宕神社は酒々井町本佐倉の西南端に鎮座しており本佐倉地区の鎮守です。佐倉市と境を接しており、奈良時代の寺院跡「長熊廃寺」、「五良神社」と地続きになっています。

創立は不明ですが、文明年間(1469~1487年)千葉介輔胤が本佐倉城を築いた頃が創祀と伝わっています。境内は949坪と広く参道はうっそうと繁った杉並木で約200M、静かで気高さが感じられる神社です。神仏混合の修験道の歴史を残しており、祭神は加茂建角命(かまたけつみのみこと):八咫鳥 下鴨神社の祭神、火具土命(かぐつちのみこと):火の神 鍛冶の神、將軍地蔵:勝軍地蔵ともいわれ軍神として武士から信仰を集めていた。



愛宕神社本殿



神社札

社殿は流れ造り、ケヤキ材を用い、彫刻を含めて神社としては当町屈指の貴重な建造物です。向拝柱左右正面には梵字が10字ずつ刻まれており、神仏混合時代の名残りととどめている珍しい建物です。向拝竜 脇障子 木鼻の彫刻は江戸時代後期の作で古い構図と作風を持っており、作者は日光東照宮造営の系譜 香取嶋村系の彫工竹内山幸と推定され、18世紀末頃に北総各所で活躍していました。

当神社は、「火伏せの神」として信仰されており、毎年1月24日には神社札の難除けお守りを授与しています。

「エコトピア酒々井」の奥に鎮座していますので、うっそうとした杉並木とすばらしい社殿の彫刻を拝見に、是非一度訪れてみてはいかがでしょうか。



鳥居



向拝竜と木鼻

コロナ禍に負けない デジタル化時代のまちづくり

【コロナ禍の下での住民活動】

新型コロナウイルスによりイベントの中止、公民館等の施設の使用が禁止または制約が付けられました。このため、町民の交流の機会は大きく減少し、ボランティア活動も休眠し、住民活動全体の衰退が危惧されます。

「NPO 法人 輝け酒々井まちづくり研究会」(以下、当研究会)も、音楽会等を中止する中、ボランティア活動を継続し、町づくりの新しい道を模索する中で、先ずは会員相互のコミュニケーションを維持しようと、ビデオミーティング「ZOOM」を利用した定例会議を持つこととし、一年以上が経過しました。

【デジタル化の進展】



皆さんのボランティア活動は如何でしょうか? 友人とのコミュニケーションは維持されているでしょうか?

ZOOM は、リモートワークの重要なツールとして多くの企業で活用されています。ZOOM では、スクリーン上に参加者の様子が映し出され、あたかも同じ部屋にいるようにお酒を飲みながらの寛ぎの時も持つこともできます。



デジタル庁が設立され、地方にもデジタル化の波は到来すると思いますが、私たちの日常で、コロナ禍に打ち勝つためにデジタル化を先取りして、ZOOM を利用した交流の場を持つのはいかがでしょうか?



【ZOOM を利用した町全体の絆づくり】

当研究会では、「住民皆が知り合い、助け合い、一つの家族のように和やかな日々が過ごせる酒々井町を作り上げることを」を目標に、その一歩として、ZOOM による交流の場を検討しています。個人、団体を問いません。ZOOM を利用した交流の場の立ち上げに参加したいと思われる方は、当研究会 (osugiyama@catv296.ne.jp) にご意見・ご希望をお寄せ下さい。

編集後記

スイッチ (Vol.20)をお届けします。平成27年1月に、「まちづくり通信」として第1号を発行して今回で20号目となりました。これからも、皆様方にいろいろな情報を提供できるよう努めますので、よろしくお願いいたします。コロナ禍で各種イベントの中止を余儀なくされていますが、諸般の状況が整えば秋頃には、映画会?でも開催したいと準備しています。実施可能となれば、チラシ等でお知らせしますので、よろしくお願いいたします。